

# 東南アジア諸国の鋳業の現状

## 地質相談所

本誌130号に(その1)として1963年の現状をのせましたがここに1964年の状況をお伝えします。

### 韓国

#### 鉄鉱と石炭の開発が盛んであり新しい精錬工場は鉛と亜鉛を増産しモリブデン輸出も上昇した

韓国鋳業界は鉄鉱石の増産と世界的なタングステン価格の高値にはげまされて64年に発展をした。64年における石炭の産出量は960万トンで63年より6.3%多かったが政府は5ヵ年計画によって71年には1450万トンにもっていこうとしている。その数字のうち1114万トン(77%)は個人経営の炭鉱によって残り336万トン(23%)は国営のDai Han 石炭開発公社(DHCC)によって産出される。DHCCによって操業されている韓国最大のChang Sung 石炭会社の主要立坑の開発に対して政府はアメリカの国際開発局(AID)から950万ドルの借款を得た。立坑工事は64年の12月に始まって66年12月に完成する予定である。政府はまた韓国の北東部にあるいくつかの中小炭鉱を生産能率を上げるために統合して67年の終りには30万トン増産する計画をたて64年の終りにはその40%を遂行した。一方非鉄金属方面では鉛と亜鉛の生産が輸出価格の改善によって伸びた。さらに朗報は新しく鉛と亜鉛の鉱山—京尚北道のMuil 鉱山が4月から生産を開始したことである。その浮遊選鉱場は毎月鉛と亜鉛の精鉱をそれぞれ400トンを生産できる。さらに京尚北道の連花鉱山(韓国の鉛・亜鉛の生産量の1/2以上を占める)は65年の6月には鉛(65%) 亜鉛(45~50%)の精鉱をそれぞれ800トンと2倍の増産をすることである。

鉄鉱の輸出価格は変化なく生産の増加量は1/3に達した。この生産量の上昇は釜山の北西約25マイルにあるMulkum(勿禁)鉄山と京城の西約25マイルにあるKyongin(京仁)鉄山の生産による。いずれも64年には全能力をあげた。京仁鉄山の開発は63年に発足し64年には韓国の鉄鉱生産のほとんど10%を占めた。尉山の鉄山は政府所有の大韓鉄鋼開発(株)の管理の下に生産を開始しようとしておりそれにより韓国の鉄鉱生産はさらに増加するであろう。磁力選鉱によって日約300トンを生産する選鉱工場の建設は65年の8月に完成するはずでそこではさらに鉱石中の黄鉄鉱と磁硫

鉄鉱を除去する方法を採用しようとしている。

タングステンの生産は63年と変らなかつたが輸出価格の増加(63年には単位あたり8ドルから64年の終りには12ドル)は韓国の鋳業界をかなり助けたことになった。韓国のモリブデンの主要輸入国である日本への輸出価格の急騰(63年のトンあたり2,300ドルから64年の後半にかけて4,000ドル)輸出量と同様生産量の増加をうながした。韓国中央部における蛭石鉱床は64年に開発され工場の拡張工事が行なわれている。蛭石絶縁体は国内用として販売されているし建築用の用途も発展している。

石灰石の産出量は地方のセメント生産量の増加に伴って急に上昇した。生産能力は64年中に3つの新しいセメント工場の完成によって100万トンを増加した。いまや年産172万トンの生産能力は韓国の需要を40万トン上回っているのでセメント工業界は65年にはその余剰分を輸出できるだろうと期待している。

冶金の分野においてなされた1つの重要な開発については国営韓国鋳業精錬会社が鉛の精錬所を韓国西中部海岸の長項精錬所内に30万ドル(AID)の借款と18万7千ドルの国内資金をもって設置したことである。韓国はこれまで1年に2,700トンの需要を全く輸入に頼っていたのでこれに多大の期待が寄せられたが精錬所は輸出価格を下まわる鉛鉱精錬費しか与えられなかつたので満足に操業するのに失敗した。

韓国における金属と鉱物生産量

商 品 名	品 位	1963	1964
石炭 無煙炭 <sup>1</sup>	—	8,858,090	9,621,600
金 <sup>2</sup>	—	2,802	2,375
銀 <sup>2</sup>	—	13,809	12,580
銅 鉱 <sup>1</sup>	Cu 5%	12,296	12,147
鉛 精 鉱 <sup>1</sup>	Pb 65%	3,833	6,695
亜鉛 精 鉱 <sup>1</sup>	Zn 50%	2,259	5,080
タングステン精鉱 <sup>3</sup>	W 70%	5,257	5,133
マンガング精鉱 <sup>1</sup>	Mn 40%	4,155	4,312
モリブデン精鉱 <sup>1</sup>	Mo 95%	129	223
ニッケル 鉱 <sup>1</sup>	Ni 4%	855	608
金属ビスマス <sup>1</sup>	Bi 99%	134	132
鉄 鉱 <sup>1</sup>	Fe 50%	500,725	684,828
黒鉛(結晶質)	C 80%	1,691	2,076
黒鉛	C 75%	337,989	262,382
カオリン <sup>1</sup>	SK 35%	52,262	60,536
螢石 <sup>1</sup>	70%	39,784	56,397
石灰石	—	1,362,749	2,219,658

1. トン 2. キログラム 3. ショートトン

台 湾

石炭とセメントの生産は上昇したが 金は減産 金瓜石銅・金鉱山において 重要な銅の富鉱体が発見された

石炭は 台湾の鉱業界に生産量と生産額の上から王座を確保している。64年における石炭の産出量は502万トンの新記録を樹立し その約20%が日本・韓国および香港などに輸出された。65年には さらに 市場における高い需要と値上りから 増産されるであろう。将来の増産に対処するために 北部台湾既知炭田の深部を開発する計画が練られている。

金の生産量は数年前に金瓜石鉱山で発見された富鉱ボケットの酒濁によって大きく落ちた。64年の金瓜石鉱山における金生産量は 前年のほとんど半分ほどであった。金瓜石鉱山における8番坑地並の復興は64年に完了し 銅含有量最高16%に達する硫砒銅鉱の高品位鉱が64年末に同地並で発見された。しかしながらこの銅の富鉱体の規模や品位はさらに探鉱と採鉱によって確認されなければならない。同鉱山の7番坑地並の既知の銅鉱量はだんだんと酒濁に瀕してきた。また 重液選鉱課は粉碎費を下げるために金瓜石鉱山の粉碎施設を付加し2年以内に完成しようとしている。重力および磁力探査が 北部台湾における磁鉄鉱の砂鉱床と水銀鉱床について行なわれたが 有望な結果を得られなかった。

64年におけるセメント生産量(13の工場)は前年の218万トンから235万トンに増加し 90万トンを南ベトナム・フィリピン パキスタンおよび香港に向け輸出した。

台湾における鉱産物の生産高

商 品 名	1962	1963	1964
石 炭 <sup>1</sup>	4,553,581	4,810,040	5,027,653
硫 黄 <sup>1</sup>	6,320	7,648	9,317
黄 鉄 鉱 <sup>1</sup>	52,809	46,762	46,214
金 <sup>2</sup>	824	990	628
銀 <sup>2</sup>	2,593	2,648	2,078
銅 (電 気) <sup>1</sup>	2,492	1,619	1,886
磁 鉄 鉱 砂 <sup>1</sup>	5,811	4,704	4,645
褐 鉄 鉱 <sup>1</sup>	—	576	1,649
滑 石 <sup>1</sup>	14,704	14,787	16,336
石 綿 <sup>1</sup>	500	548	—
石 膏	15,921	26,588	16,650

1. トン 2. キログラム

香 港

鉄は依然として鉱産物の第1位を占める カオリンは日本へ船積みされ 長石は地方向けの陶磁器と珪瑯用に使用された

64年における生産量は 63年とほぼ同じで そのうち磁鉄鉱は 生産量と価格からみて もっとも重要な鉱石

で選鉱してからすべて日本に輸出される。正長石は3つの小さな露天掘鉱山から毎月合計130トンばかりを産し 地方向けの陶磁器と珪瑯用に使用される。

高品位のカオリン粘土が Cha Kwo Ling 採掘場から月産400トンほど採掘され 日本に継続して輸出されることになった。また ある大きな会社は 2~3の陶土採掘場から水洗した陶土を集めて タイル類を作る計画をもっている。Yan Hing 鉱山会社は 鉄マンガン重石を産するニードル・ヒル鉱山を経営し WO<sub>3</sub>にして65%以上の精鉱をかなり貯蔵している。

香港における鉱産物の生産高

商 品 名	1962	1963	1964
長 石	937.00	1,680.20	1,556.33
黒 鉛	1,207.70	536.75	617.00
鉄 鉱	111,536.58	111,864.73	114,373.79
カ オ リ ン	6,373.79	5,018.68	5,042.99
石 英	4,155.86	2,997.19	1,648.58
鉄マンガン重石	15.07	7.17	1.32

(単位 ロングトン)

マレーシア

191の新しい鉱山が 錫の高値の続くので開かれた ドレッジ方式に代ってポンプ方式が登場した 鉄鉱業は衰退した

64年における錫の生産量は63年よりもわずかに多く6万トンで 1930年以来はじめてポンプ方式による生産量はドレッジ方式によるそれを凌駕した。ポンプ方式による鉱山は 593から768に増えたのに ドレッジ方式によるものは3だけ増加したにすぎない。これは 少額資本による短い生命力しかないポンプ方式が 高額資本による長い生命力のあるドレッジ方式よりも 64年のような錫の高値の時代には適しているためであろう。この錫の高値は65年へと続くものと期待されている。

錫の個人企業による探査は続けられたが 経済的に引合う新しい鉱床の発見は報告されなかった。政府機関である鉱物試験調査事業団は 11地域において成功し これらのうち少なくとも1つは マレー資本によってヨーロッパのドレッジ会社を招いて操業する。陸上において錫鉱床を新しく発見する可能性が減少するにつれ 沿海地域において錫を探査する興味が大きくなった。政府は マレーシアの沿海地域において錫を探査しようとする 数多くの出願申請書の取り扱いを考慮中である。輸入精鉱は減少したにもかかわらず 第3の薄板製錬所が マレーシア-日本の共同出資によって発足したが 製錬所は この国ではもはや過剰気味である。

鉄の産出量は 63年には726万トンと絶頂に達したが

64年には646万トンに減退した。しかし そのおもな輸出市場である日本へは636万トン 1億6千2百万ドルを輸出した。

錫と鉄鉱業は マレー州に限られているが マレーシアの他の重要な鉱産物であるボーキサイトは ジョホール州とサラワク州の2つから得られ その生産量は次のとおりである(サラワク州の項参照)。

ボーキサイト生産量

ボーキサイト	1963	1964
サラワク州	155,243トン	158,092トン
ジョホール州	444,047トン	463,825トン
合計	599,290トン	621,915トン

また マラヤ州とサラワク州において採掘された金は前年に比べて1,470トロイ・オンス少ない10,419トロイ・オンスであった。

サラワク州の砂金 64年に3,115オンスを採掘したバウ地方における砂金探査試錐は 35~100フィートの深さで1トンにつき平均3.0ペニーウェイト(1ペニーウェイトは1/20オンス)の低品位鉱約5,000トンを発見したが まだ 鉱床の全貌を確かめてはいない。

ボーキサイト 産出高は62年より7万トンも少なく65年にはその埋蔵量がなくなるだろうと予想されているので 新鉱床の探査が鋭意続行されており 有望な徴候もいくつか報告されている。

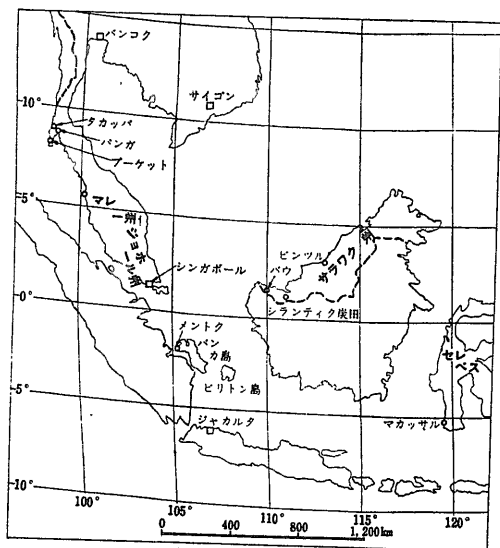
石炭・粘土および珪砂 日本鉱業(株)は サラワク州政府にシランティック炭田の粘結炭と天然コークスの採掘を提案したが それと関連して同政府から原土と精製粘土との輸出計画をゆだねられた。また その提案のなかには埋蔵量200万トン以上といわれるビンツルの良質のガラス用質砂の開発も含まれている。

マレーシアにおける鉱産物の生産量

商 品 名	1962	1963	1964
錫 精 鉱 <sup>1</sup>	58,603	59,947	60,004
金 <sup>2</sup>	6,923	9,116	7,304
鉄 鉱 <sup>1</sup>	6,507,302	7,264,543	6,465,695
マンガン 鉱 <sup>1</sup>	304	6,872	—
ボーキサイト <sup>1</sup>	349,419	444,047	463,825
イルメナイト(輸出) <sup>1</sup>	101,675	147,014	129,245
モナザイト(輸出) <sup>1</sup>	627	885	303
鉄マンガん重石 <sup>1</sup>	9	6	5
コロンブ石 <sup>1</sup>	110	88	56
錫精錬スラッグ(輸出) <sup>1</sup>	911	11,400	—
陶 石	3,459	1,176	1,420
ジルコン(輸出)	60	173	178
銅 精 鉱(輸出) <sup>1</sup>	1,250	1,900	1,320

1, ロングトン 2, トロイオンス

タイ 沿海の錫探査がクローズアップされた 小アンチモン鉱



第1図 タイ・マレーシア・インドネシア位置図

山が北部地方において続々開かれた 各種の鉱山は大部分生産量を増加した

64年には 錫の高値が続いたので 錫鉱業は タイの鉱工業における重要な役割を演じた。この年の錫鉱の生産量の増加は 数多くの陸上におけるポンプ方式の鉱山の開発によるものと 沿海におけるアオムカ錫会社の新ドレッジ方式による。ユニオンカーバイド会社(アメリカ)は 東部鉱業開発会社(BURAPA)の承認のもとに沿海探査権を獲得し Pangnga と Puket 地方の沿海においていよいよ探査を開始した。南部キンタ連合およびパンミュン錫ドレッジ会社は インド洋岸のタックパ町の近くで新しい沿海鉱床に対して試錐と各種試験を数多く行なった。

64年には タイは約1万2千トンの錫精鉱をマレーシアに精錬用として輸出したが プークットに(ユニオンカーバイド会社とBURAPA との共同投資による)THAI SARCO会社によって新精錬施設が建設され これによって全タイ国の錫精錬を行なうように期待しているので それが完成される65年の8月以後には政府は錫鉱の輸出を禁止しようとしている。

タイにおける鉱産物の生産量

商 品 名	1962	1963	1961 <sup>1</sup>
サ ズ 石 <sup>2</sup>	20,001	21,265	21,600
鉄マンガん重石 <sup>3</sup>	380	186	362
鉛 鉱 <sup>3</sup>	5,550	5,030	7,909
マンガン 鉱 <sup>3</sup>	2,898	6,519	11,414
石 膏 <sup>3</sup>	21,000	23,890	44,434
螢 石 <sup>3</sup>	10,710	29,230	64,114
鉄 鉱 <sup>3</sup>	45,307	15,740	221,257
アンチモン	87	1,344	2,957

1, 予想量 2, ロングトン 3, トン

インドネシア

錫の生産が上昇し 新しい浸漬機が発注された はじめてニッケル鉱が協力的な契約のもとに日本へ船積みされた

錫の生産量は 63年に一頓座したが 64年には62年のレベルをとりもどし 65年にもこの上昇傾向が続くだろうと期待されている。 64年の1月31日に10台の浸漬機（分解運搬可能な）の引き渡し契約が インドネシア錫管理局と西独の機械工作会社との間に署名された。 これは管理局が錫生産の復興のために同意契約した第3番目のものである。 最初の契約は 前回述べたようにパンカ島のメントクにおける錫精錬所建設に関するもの 第2番目は 65年の終りに引き渡されるスコットランドからの海洋浸漬機である。

64年における石炭の産額（44万5千トン）は 輸送力不足のために 63年の水準（59万1千トン）を維持できなかった。 しかし 生産を回復する努力は進められている。

インドネシアと日本の SUNIDECO との間に結ばれた生産物分与方式による ニッケル鉱石5千トンの最初の船積み が 64年の12月に万成丸によって行なわれた。 64年における全ニッケル鉱石の輸出は4万5千トンに達した。 セメント生産量は 64年には わずかに増加したが 国の需要にははるかに及ばない。 その不足分は輸入量による。 しかしながら セレベス島マカッサルのトナサにある 年産能力12万トンの新しいセメント工場が 近く操業に入るだろうと期待されている。

インドネシアにおける鉱産物の生産量

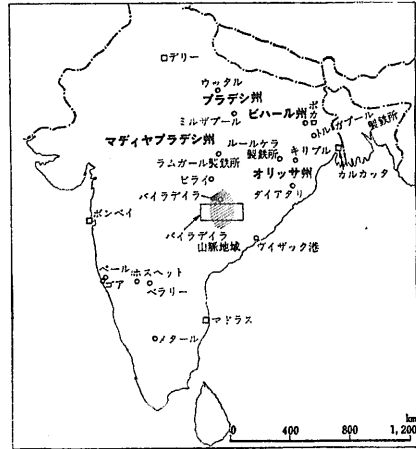
商 品 名	1962	1963	1964
錫 <sup>1</sup>	17,583	12,918	16,345
石 炭 <sup>2</sup>	471,104	591,356	445,762
金 <sup>3</sup>	139,444	137,424	180.0 <sup>4</sup>
銀 <sup>3</sup>	7,720,967	8,672,228	7,900.0 <sup>4</sup>
ボーキサイト <sup>1</sup>	483,570	491,610	637,599
ニッケル 鉱 <sup>2</sup>	10,777	45,528	45,000 <sup>4</sup>
セメント <sup>2</sup>	510,689	429,500	438,647

1. ロングトン 2. トン 3. キログラム 4. 推定

インド

輸出の花形である鉄鉱の産出額が伸びた ソ連と英国は鉄鋼業を援助し ゴアにペレット工場をつくった。

世界90余国から1500人の地質家と科学者が集まり 第22回万国地質学会議が ニューデリーにおいて12月14日から22日まで行なわれ 64年はインドにとって意義深い



第2図  
インド位置図

年であった。 同会議は アジアにおいてはじめての画期的なことであった。 資源の重点は 鉄鉱石 製鉄用石灰石および銅鉱に向けられ その結果高炉セメント用石灰石のすばらしい埋蔵量が マディア プラディッシュ州 ウットルプラディッシュおよびビハール州において確認された。 ミルザプル地方のコタカジャラットの石灰石は いまでは タタ鉄鋼会社とドルガプール鉄鋼工場によって使用されている。

鉄鉱石の生産と輸出は上向いており とくに 輸出はマディヤプラディッシュ州のハイラディラ山脈地域とビハール州のキリブル オリッサ州のデイアタリから まもなく 全力をあげて生産が開始されるはずなので 66年には65年の2倍になるだろう。 このため ビザック港では鉄道と鉄道輸送および鉱石操作設備に 適切な準備がなされ 年間600万トンを取り扱えるようになった。 また ゴア州のペールにおいては 1時間に250トンの鉄選鉱能力のある鉄鋼工場が 64年に生産を開始し ペレット工場も建てられた。

インドとソビエト政府は ビハール州のボカロにおいて年間150万トンの生産能力をもつ鉄鋼工場を建設する契約を結んだ。 ソビエト政府の援助による プライ鉄鋼工場の生産拡張計画（100万トンから250万トンへ）も65年に完成されるだろう。 また ドルガプール工場の生産能力を100万トンから160万トンに 最終的には300万トンに上昇するために インドと英国政府との間に交渉が進められている。 大工場の鉄鋼インゴットの生産量は 下のとおりであった。

TISCO	1,913,000トン	Durgapur	1,007,000トン
IISCO	973,000トン	Bhilai	1,134,000トン
MISCO	16,000トン	Rourkela	891,000トン

アルミニウム金属生産能力は 64年の終りには58,350トンに達し、メタルにおけるマドラスアルミニウム工場の全生産能力は、これだけで近い将来68,350トンになるであろう。インドにおけるセメントの生産は、需要に追いつけないので、12以上の会社が新設され、既設の会社はその設備を拡張しようとしている。合同セメント会社は、18の工場をもち高炉用セメントをつくる最大の会社である。そのケイモアールにおける白セメント工場は、64年の8月に生産を開始し、ビライの近くのジャーマールにある他の高炉用セメントをつくる工場も生産態勢に入った。

年内、ある種類の雲母の最低価格がきまり、ダンピングをしないことを条件として、くず雲母の輸出禁止令が11月に解除になった。これまで、くず雲母を安く売れすぎたために、きびしい支払い条件がきめられてはじめて雲母の輸出が許可された。816の鉱山からの報告集計によると、年内の生産量は需要をみとすことができそうである。

インド鉱山局は、鉄鉱床をベラリー・ホスヘッド地方に、粘結性をもつ石灰質鉄床をラムガール地方にそれぞれ探査を行ない、後者ではビハールに炭層を発見している。これは混合炭に適するであろう。もっとも3月には鉱山局の石炭探査活動は国立石炭開発公社に移管された。そのほかの探査情報としては、国際鉱物・化学会社とロッキード宇宙・ミサイル会社は南岸に沿って化学肥料用の磷鉱石を調査中である。

インドにおける鉱産物の生産量

商 品 名	1962	1963	1964 <sup>1</sup>
石 炭	61,370,000	63,956,000	62,007,000
褐 炭	211,000	999,000	1,613,000
鉄 鉱	19,640,000	20,504,000	21,000,000
マンガン	1,627,000	1,291,000	1,127,000
マグネサイト	212,888	234,566	199,809
雲 母	28,000	25,000	22,000
石 灰	16,850,000	17,238,000	16,523,000
ク ロ マ イ ト	66,648	64,790	37,657
滑 石	101,000	121,000	133,000
石 膏	1,222,000	1,191,000	902,000
鋼 鉄 (完了分)	3,708,000	4,258,000	4,284,000
鉄 マンガン	109,000	118,000	130,000
アルミニウム	35,209	55,230	55,394
銅	9,781	9,582	9,335
鉛	2,849	3,537	3,417
亜 鉛 (精 鉱)	9,837	10,627	10,596
セ メ ン ト	8,586,000	9,355,000	10,367,000

1. 予 想

セ イ ロ ン

黒鉛の輸出は上昇し、カオリンははじめて精製されたイルメナイトは海浜砂鉱から回収され、ルチールとジル

コンも実験的に回収された

黒鉛の輸出高は前年より増加したが、輸出先は前年と同様でアメリカに全輸出の29%、英連邦に23%、日本に22%であった。おもな黒鉛鉱山はボガラ黒鉛会社、カハタガハ鉱山会社とH.L.デメル会社によって開発されている。

モナザイト分離工場は年間を通じて高品位のモナザイト約175トンを、砂鉄開発公社は4万5千トンのイルメナイトを生産した。ルチールとジルコンは実験的に生産されたにすぎなかった。サファイア・ルビー・アクアマリン・ジルコン・トパーズ・クリソベリルおよびムーンストーンなど30万4千カラットの宝石は、価格にして約130万ルピー輸出された。63年の後半期に生産に入ったカオリンの精製は1500トンを生産した。セメントの年間生産量は、11万6千トンの石灰石と2万3千トンの粘土を使用して7万3千トンであった。ガラス工場はガラス用砂3千トンを使った。窯業工場に使われる長石と石英もまたセイロンで生産された。鉄鋼工業における初期の段階の仕事は確実に進歩した。つぎには輸入した鑄塊を圧延する段階になるであろう。

セイロンの黒鉛輸出量 (ロングトン)

年	ロングトン	年	ロングトン
1951	12,621	1962	8,630
1955	9,878	1962	8,643
1960	9,024	1964	10,676

ト ル コ

クロム鉄鉱生産量は前年の2倍に膨張した。アージェリー鉄鋼会社は56年に全能力を發揮するだろう。探鉱事業団はぞくぞく有用鉱物を発見した。

64年には、世界的にみてクロム鉄鉱の価格が高値であったので、トルコの生産量と輸出量は活況を呈した。この国最大のエティバンク鉱山会社は、クロム鉄鉱生産量を21万5千トンと2倍にした。年末の水銀の高値はかつての水銀鉱床への興味を復活させ、エティバンク鉱山会社の増産となったが、他の会社では減産となった。アージェリー鉄鋼会社は、黒海沿岸のアージェリーに一貫鉄鋼工場を新設し、65年の当初から鉄鋼生産を開始するので、輝かしい将来が鉄鋼業界に期待される。それに呼応するかのように、鉄鉱石の生産は64年には20万トン増産されたが、65年にはさらに上記の新会社に供給するため増産されるだろう。

Maden Tetkik ve Arama Enstitüsü Genel Mudurluğu (MAT) は、地質図作成と探査の責任を負う探鉱

事業団である。MTAの最初の5ヵ年計画はトルコの経済開発にもっとも寄与する鉱物を優先的に調査するように良く準備されている。MAT研究所は64年に約550万ドルを探査活動に投資し下の鉱物埋蔵量を見つけた。

- アルミニウム：3050万トン
- アスファルト：600万トン
- 黄鉄鉱：300万トン
- 燐酸鉱物：1億トン
- 褐炭：800万トン
- マグネサイト：250万トン
- アンチモン：5万トン

トルコエティバンク鉱山会社による鉱物生産量

商 品 名	1963	1964
粗 銅	24,790	25,981
クロマイト鉱石	110,271	215,507
硫 黄	19,430	22,200
鉛 (精 鉱)	1,143	1,626
亜鉛 (精 鉱)	1,867	1,858
ボロン 鉱物	60,000	51,093
黄 鉄 鉱	97,082	121,523
水 銀 <sup>1</sup>	26,325	34,806
硫 酸	19,737	15,578

1. キログラム

### オーストラリア

イルメナイト ボーキサイト ルチル 錫 黒・褐炭と鉄を増産する計画がある 日本への鉄鉱の輸出は5億トンに達した

64年は多くのオーストラリアの鉱物生産者と開発家にとってすばらしい年であった。ボーキサイト 鉄鉱 イルメナイト ジルコン 黒・褐炭と石灰石の生産額は新記録をつかった。水力発電と火力発電の発展についてセメント製造工業は長足の進歩をとげた。鉛と亜鉛と銀の生産はブローケンヒルの計画的減産とマウントイサのストライキによって減退した。

鉄鉱 ボーキサイト イルメナイト ルチルと石炭の生産量はここ数年間に著しく膨張するだろう。銅 錫 マンガンおよび他の金属の増産もまた予想される。広域にわたる調査と探査がいまこの大陸に進められておりその結果ぼう大な鉱量が確保されている。オーストラリアの鉱業の将来に関して天井しらずの楽観論がある程度正当と見なされている。

クイーンズランド州における増産は 下半期におけるマウントイサ鉱山のストライキのためとまってしまった。そのために生じた銅の不足は その粗銅を鉱山の食いつ延ばしのため日本に売却したので一層高められた。ストライキは65年の3月の末に終わったが 全生産の再開



第3図  
オーストラリア位置図

は数ヵ月を要するとみられている。

テーブルランド錫開発会社は 予想より多少錫を増産したにとどまったが マウントガーンネット地方やその他の地域において活発な探査を続けているので さらに有望な錫鉱床を発見するだろう。マーフィ鉱山会社はグラッドストーン地方のクロム砂鉄床(この型では世界最大と信ぜられている)から年間20万トンのイルメナイトを生産するために200万ドルを使用するだろうと発表しこれはいわゆる“海浜砂鉄”の開発関係方面にビッグニュースとなった。この生産は66年の末に開始されるであろう。ルチルの生産量は北ストラッドブローク島におけるリオ・チント子会社の採掘によって昨年2倍の約3万トンに達するであろう。

アルミニウム開発公社はワイパ地方におけるボーキサイトの生産量を年間225万トンに高めようとしている。グラッドストーン市のアルミニウム工場は計画どおり進行中である。新セメント工場はロックハンプトン市にクイーンズランドセメント石灰会社によって建設されている。

オーストラリアにおける鉱産物の生産量

商 品 名	1962	1963	1964
金 <sup>2</sup>	1,069,000	1,023,970	963,342
銀 <sup>2</sup>	17,554,000	19,581,000	18,275,000
銅 <sup>3</sup>	106,972	112,746	104,100
鉛 <sup>3</sup>	370,532	410,328	371,000
亜鉛 <sup>3</sup>	337,532	351,428	346,000
マンガン <sup>3</sup>	34,158	15,573	—
タングステン精鉱 <sup>3,4</sup>	1,042	960	1,000
錫 <sup>3</sup>	2,715	2,852	3,400
ルチル精鉱 <sup>3,5</sup>	115,200	177,150	173,400
イルメナイト精鉱 <sup>3,5</sup>	100,294	111,913	170,360
ジルコン精鉱 <sup>3,6</sup>	132,109	181,284	183,500
鉄 <sup>3</sup>	3,119,000	3,556,970	3,678,000
ボーキサイト <sup>3,7</sup>	13,250	170,522	363,300
黒炭	24,470,000	24,857,000	27,363,000
褐炭	17,137,000	18,457,000	19,033,000
セメント	2,886,000	3,066,000	3,566,000

資料はキャンベラにある地下資源・地質 地球物理局による 1. 推定 2. オンス 3. ロングトン 4. WO<sub>3</sub>含有量 5. TiO<sub>2</sub>含有量 6. ZrO<sub>2</sub>含有量 7. Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>含有量  
(ワールドマイニング誌 1965年6月号から 地質相談所 松井寛訳)